

令和 7 年 7 月 定例教育委員会

○ 開催概要

○ 開催日時	令和 7 年 7 月 25 日（金）13 時 00 分～13 時 41 分		
○ 開催場所	県庁 22 階 教育委員室		
○ 出席者			
（委員等）	教育長 教育長職務代理者 委 員 委 員 委 員 委 員 委 員	柳 橋 常 喜 富 田 敬 子 庄 司 一 子 幡 谷 史 朗 伊 藤 道 子 磯 部 大吾郎 森 淳 一	
（事務局職員）	総務企画部長 学校教育部長 総務課長 教育企画室長 財務課長 生涯学習課長 文化課長 私学振興室長 教育改革課長 義務教育課長 高校教育課長 特別支援教育課長 保健体育課課長補佐（総括） 生徒支援・いじめ対策推進室長	川和田 由紀子 庄 司 一 裕 山 本 晃 裕 富 樫 仁 彰 武 村 知 己 増 子 靖 啓 真 木 陽 水 平 賀 靖 鈴 木 知 孝 山 口 英 司 深 澤 美紀代 仲 野 祐 二 興 野 典 子 平 山 健 治	

○ 議 案

議 題	案 件 名	担 当 課	公開・ 非公開の別
1 報告			
1	高等学校外国人生徒支援の拡充について	高校教育課	公 開
2	令和 8 年度採用茨城県立高等学校等校長選考試験について（中高一貫教育校等における校長の公募選考）	高校教育課	公 開

○ 会議録

1 開 会

教育長による開会の宣言後、非公開審議項目について提案し、各委員から了承された。

2 議 事

(1) 公開審議

発 言 者	発 言 内 容
【報告1】 高等学校外国人生徒支援の拡充について	
高 校 教 育 課 長	資料①に基づき説明
(主な質疑・意見等)	
庄 司 委 員	外国人生徒支援コーディネーターの仕事というのは、非常に重要になってくると思います。具体的な仕事の内容は、資料に書いてある「生活・進路等支援、面談等対応、外部機関連携調整」であると思いますが、このような方の選考に当たっては、どのような基準で進めているのでしょうか。
高 校 教 育 課	現在は、NPO法人に委託をしております、基本的にはその団体がしっかりと選考した者を配置していただいております。
庄 司 委 員	どういうことを重視して選ばれるのでしょうか。
高 校 教 育 課	外国人の児童生徒に対して関わったり、支援をした経験があったり、国際的な感覚をお持ちだったりという方をお願いしているところです。
庄 司 委 員	特に夜間高校に通う外国人のお子さんの支援をなさっている方と連携して仕事をしているのですが、先生方の理解や生徒との関わり、それから学校と保護者との繋がりといったところで、特に保護者が日本語を話せないと非常に難しいと思っております。そのところをぜひ調整いただいて選考していただければありがたいと思います。
富 田 委 員	庄司委員がおっしゃったことと同じ方向性で私もお伺いしたいのですが、資料に外国人生徒支援コーディネーターと日本語指導支援員の2つのタイプの記載があり、日本語指導支援員に関しましては、日本語教師が国家資格化されたことで、試験によってある程度クオリティコントロールがなされると思いますが、その一方で、外国人生徒支援コーディネーターというのは、資格制度みたいなものは存在するのでしょうか。制度化されていないのであれば、例えば、海外に行った経験がある、志があるといった方だけに頼ってしまうのは不安な気がいたします。県の仕事ではないとは思いますが、どうかして最低限の知見を持った人たちを採用できるような仕組みがあるといいなと思いました。
高 校 教 育 課 長	現在はNPO法人コモンズのスタッフさんに来ていただいているのですが、年数を重ねながら、このスタッフさんが責任を持ってしっかりと接していただいている現状を我々も把握しているので、その点については安心してお任せしている次第です。
教 育 長	今現在外国人生徒支援コーディネーターがしっかり行っていると言っても、急増しており、全てを把握できない状況なので、資料の「主な支

	援内容」が確定した内容ではなく、毎年、次年度に向けて検討していくのかについては、どうなっているのでしょうか。
高校教育課長	学校の重点校も増やしていますし、対象となる生徒も増えているという状況ですので、外国人生徒支援コーディネーターについては、どのような方法がよいか研究をしながら、毎年見直しを図りながら進めていこうと考えております。
庄 司 委 員	子どもたちの意見やニーズを把握して、それに十分応えていただいているかというところを、ぜひ評価の観点に入れていただきたいと思います。
幡 谷 委 員	私も同じ点でありまして、NPO法人コモンズさんという話でありますけれども、これはあくまでも県の事業で、県が品質を担保することが必ず求められますので、ぜひ連携をさらに強化していただいて、庄司委員のおっしゃったように、児童生徒や保護者の皆さんのご意見もあると思いますので、大変難しい困難なお仕事だと思いますけれども、みんなで知恵を絞って前に進めていかないといけないと思っております。 また、言語が27 通りのすごい数ですけれども、実際にはITやAIを活用するといった具体的なものはあるのでしょうか。それともまだアナログ的に、その言語をしゃべれる人がいる、いないといった状況なののでしょうか。 日本語を学ぶ前に、最初は母国語で意思疎通を図っていかないと日本語にたどり着かないのではないかなと思います。
高校教育課	ICTについて、1人1台端末を活用しているところですが、三者面談などのときには、しっかりと通訳の方を配置して、保護者を含めてコミュニケーションをとっているところです。
幡 谷 委 員 高校教育課	27 言語に対応した通訳の方がいらっしゃるということですか。 基本的にはNPO法人のスタッフで対応しているところですが、対応できない言語の場合には、外部から呼んでいるところです。 オンラインについては、今翻訳ソフトがかなり充実していますので、生徒もそちらを活用しているところです。
高校教育課長	少数の言語については、全ての学校にスタッフの方を派遣するというのではなく、拠点校を決めて、そこからオンラインでつないで、違う重点校の同じ母国語を話す生徒の支援をするという形を今はとっております。人数がたくさん必要ということではなく、対応できる方法をとということで今はこの形をとっております。
教 育 長	小中学校の状況についてもお願いいたします。
義務教育課長	高校と同じように小中学校におきましても、かなり外国人児童生徒が増えております。小中学校で学んだことを高校にという形で流れていきますので、小中高で一貫した取組を考えているところであります。 先ほど27 言語という話がありましたが、今現在はそこまで対応できていない状況です。 常総市の旧水海道地区では、ポルトガル語を話すブラジル人のコミュニティが多く、そちらに対応するため、令和6年度から、ポルトガル語を話せる支援員さん、教員1名のペアでの支援ということで、支援員

	を8名ほど配置しております。 今年度からは、外国人児童生徒が多い8市町村まで広げました。主には県西地区になりますが、県南地区のつくば市と土浦市、水戸地区の大洗町で550名ぐらいの日本語が話せない子どもたちへの対応というところになっております。 支援員さんが母国語を話せるか話せないかについては、国に確認したところ、支援員さんは母国語が話せなくても、日本人であっても、日本語支援員として支援することができるというお話もいただきました。逆を返すと、小中学生ですので、母国語が話せると甘えてしまって、なかなか日本語を覚えないというような話もありまして、今年度につきましては、母国語を話せない方も含めて53名を配置しました。 地域や学校、市町村教育委員会からも意見をいただいております。特に、子どもだけではなく保護者への対応の部分で、母国語が話せる支援員さんがとても重要というお話をいただいておりますので、その辺も加味しながら次年度は施策を考えていきたいと思っております。
教 育 長	外国人生徒支援コーディネーターの役割と、どのように27言語に対応しているかという疑問点が出ているので、オンラインでどのように翻訳や通訳を行っているかというところもよろしいでしょうか。
義 務 教 育 課 長	小中学校が筑波大学と連携して、筑波大学から日本語支援ということで、オンラインをしております。あまり多学年だと対応が難しくなりますので、小学校5年生から中学校3年生までというところで、筑波大学の先生や大学院生といった方々に対応していただいているというところ です。 翻訳につきましては、なかなか伝わらない保護者に文書を作るに当たって、翻訳をしてもらうというところがございます。NPO法人のコモンズさんをお願いしているところは多分がございます。 それから、通訳につきましては、特に中学校3年生は高校受験を控え、三者面談がとても重要になってまいりますので、ここ数年間、通訳さんに入っていていただいている面談をするような環境を作っております。
教 育 長	私も学校に行ってきましたが、学校の先生が必ず授業に入り、状況に応じて日本語指導支援員さんに加わってもらっています。市町村でも対応はしていますので、教員と日本語指導員だけでは難しく、直接入れる人がいる場合には加わってもらっています。 難しい言語もたくさんあるので、その場合には、筑波大学と連携したオンラインを活用した翻訳・通訳ということを県で対応しております。オンラインの翻訳・通訳ですので、全県下で活用いただいているというのが現状です。 また、AIツールが今非常に優れており、小学校では小学生がタブレットでAIのツールを使って、自分でやれることをやっているという状況もありました。 常総市立飯沼小学校では、5年生の時に日本に来て、全く日本語ができなかった子が、6年生になって既に算数の授業を日本語で受けているような状況もありました。 上達のスピードに個人差はありますが、そういう体制が取れてきてい

	るところです。来年度に向けては、どのような支援体制をとっていか検討しているという段階になります。
磯 部 委 員	私は、小学校低学年の時に突然イギリスに行くことになりまして、現地の小学校に入ったときの記憶が少し蘇ってきました。そのときに思ったのが、周りに日本語をしゃべれる子がいると甘えるということがあるので、ある程度日本に来たのだから日本の文化と言葉に慣れてもらうということを前提にした方がいいと思います。 おそらく日本に来る人は英語を少しかじっているとか、中国語であれば少しわかるとかそういう人が多いと思います。27 言語対応というのはすごく大変ですので、27 言語全てに対応する必要はないのかなという気がしています。 私の母も、全く英語はしゃべれないのですが、その時には、小学校の先生と身振り手振りで何とかコミュニケーションをとって、どういう宿題が出たとかそういうことまで聞いてくれたので、その辺はそれほど問題ないのかなという気がしています。 ただ、やはり重要なのが、例えば進学に関する相談や生活全般に関する相談といったことで、できればきちんとコミュニケーションをとれるような言語をしゃべれる人がいると助かると思います。 特に子どもたちは柔軟性があるので、すぐに溶け込めるのではないかなと、むしろそういうものを期待した方がいいのではないかと私は思います。
義 務 教 育 課 長	先日、教育長と学校をまわらせてもらったのですが、常総市立飯沼小学校では、フィリピン系のお子さんがたくさんいらっしゃって、学校の3分の1が外国人です。校長先生の話では、「今日はフィリピン対日本でサッカーをするぞ」と子どもたちが言っていたと。それは別に敵対しているわけではなく、時には混ざって、時にはそのような形で生活を送っているとのことでした。
教 育 長	子どもたちの声を直接聞きながら行っておりまして、参考までに、石下紫峰高等学校で高校3年生の男子生徒に話しかけたのですが、「日本語をしゃべるのは基本的には問題ありません」「ひらがなも問題ありません」漢字研究という授業で「7級の漢字の書き取りを行っていて、6級はちょっと難しいです」という受け答えをきちんとできていました。ちなみに英語も「全く問題ありません」とのことで、母国語もあるので、3つ言語を学習していました。フィリピンやブラジルの生徒もいるので、楽しくしっかり学習をされているということでした。 県西地区では、NPO法人や筑波大学、あと関係の方々の会議がありまして、県も入った必要な状況確認と意見交換をしながら、毎年毎年こういった支援がいいのかということをやっております。
富 田 委 員	今のご報告は、教育庁としての報告ということですので、児童生徒を対象とした言語支援ですよね。地域における多文化行政的な視点から見ると、言語指導が必要なのは必ずしも生徒だけではなく、親御さんや来日して日が浅い方も当然入ってくると思います。そういう方への援助は、おそらくそれぞれの市町村が行っていると思いますので、それぞれ必要とする人材が同じであれば、取り合いになる可能性もあります。県

	の教育庁として手を差し伸べている支援と、地方自治体が行っている支援とのコーディネーションがどこかで必要なのかなと感じます。 あと、例えば、放課後に日本国籍を持たない方に向けての言語指導を行うのであれば、時には親御さんも一緒に加わっていただくなど地域の自治体の行っている支援活動とうまく組み合わせると効率がいいのではないかと思います。ご提案です。
--	--

発 言 者	発 言 内 容
【報告 2】 令和 8 年度採用茨城県立高等学校等校長選考試験について （中高一貫教育校等における校長の公募選考）	
高校教育課長	資料②に基づき説明
（主な質疑・意見等）	
磯 部 委 員	先ほど、配置予定校として結城第一高等学校と石下紫峰高等学校を加えるという話でしたけれども、外国人生徒支援重点校というタスクがありますよね。その時に校長として求める人物像のところに、何かしら国際性というものを求める必要はないのでしょうか。
高校教育課長	校長先生ご自身に国際性を求めるかところのご質問だと思うのですが、もちろん感覚として理解として国際性ということをも求めたいと考えております。 やはり価値観や文化の違いといった部分を柔軟にしっかり受けとめて、そして、日本人と外国人の橋渡しがしっかりできるような学校生活を作れる知見や意欲がある方にぜひ応募して欲しいと考えております。
磯 部 委 員	「求める人物像」には書き加えないのでしょうか。
高校教育課長	「求める人物像」の中に「社会の変化への対応力と先見性を有する者」というものがあるので、そういう意味では、外国人の増えた社会に対してどう対応するかというところで大きくとらえております。
伊 藤 委 員	校長先生に新しく選ばれた方々は、1 年間副校長をやるという決まりはあるのでしょうか。
高校教育課長	民間の方が合格した場合は、1 年間副校長として勤務いただきます。学校経営や学校という文化にまずは慣れていただくためにそのような形をとっております。
伊 藤 委 員	水戸第一高校においては、現在公募の先生が校長先生をやっているんですが、次の校長先生が民間の場合、校長、副校長ともに公募の先生ということになるのでしょうか。
高校教育課長	いえ、例えば民間の方が水戸第一高校に配置された場合は、その方はもちろん副校長になるのですけれども、教員からの校長先生をつける必要はあります。 鹿島高校がそういう状況にありまして、昨年合格した河田先生が今年副校長にいらっしゃいますけれども、校長先生として、上田先生という教員からの校長先生を今年新たに配置してございます。
伊 藤 委 員	一年間だけ校長先生をするということでしょうか。
高校教育課長	その校長先生は、結果的にはそうなります。
教 育 長	その前段として、水戸第一高校は今年度末で校長先生の任期が満了す

	るため、来年度民間の方を配置することとなった場合は副校長になるから、通常の校長先生を配置するということになります。
富田委員	応募資格のところ「年齢制限なし」とありますが、通常の高校の先生には定年がありますよね。
高校教育課長	はい。役職定年で60歳というものがございますが、ここは年齢にこだわらず、意向、意欲、意識が高い方を広く応募したいと考えております。年齢制限はないのですけれども、選考の段階で、人物も含め健康状態といった部分についてももしっかり面談等させていただきたいと考えております。
富田委員	リファレンスチェックとバックグラウンドチェックについて、具体的に教えていただけますでしょうか。
高校教育課	リファレンスチェックというのは、これまで働いていた先輩や同僚、後輩といった方に対して、応募者が指名をしまして、その方からレポートをいただくことになります。レポートは、本人を通さずに直接教育庁に送られてきて、確認をするということになります。 バックグラウンドチェックにつきましては、ネガティブチェックとも言われておりまして、法規上の違反を犯していないか、コンプライアンス違反をしていないかといったことを第三者機関によって調査するものでございます。
幡谷委員	応募によることで間口も広げつつ、志の高い人たちを何とか集めたいという方針をされているのはよくわかりました。 これまでの実績から、これまで民間校長をした諸先輩たちの知見などが蓄積されていると思いますが、先輩たちの思いや活動、実績などから、応募したいと思う人たちに、自分もそうなりたい、そういうところを越えてみたい、突破してみたいといった気持ちにさせる、心に火をつける、そんな情報提供は何かありますか。
高校教育課長	地域の校長会や管理職の集まりなどにおいて、例えば、企業と連携して探究活動を一生懸命やっている話を聞くといったことは、あちこちで始まったところはあるのですけれども、今のお話を伺って、県の仕掛けとして、PRのために先人の方の成果などの動画作成などはいいいアイデアだと思いましたので、今後参考にさせていただきたいと思います。
幡谷委員	間口が広がって、さらに質の高い方たちに来ていただくために、何か心が奮い立つとか志が高くなるようなそんな情報提供ができればいいかなと思いました。

3 閉会

教育長が閉会を宣言した。